

## 平成 16 年度事業報告書

### 1. 平成 16(2004)年度事業報告

#### I 山岳および登山に関する学術調査および研究について

(定款第二章(目的および事業)第五条第一項)

1. 昭和 54(1979)年1月に設立されたヒマラヤ委員会を適宜開催し、崑崙山脈、雲南省、チベット自治区などの中国、ならびにブータン王国にある高峰への学術登山隊派遣について検討を重ねた。
2. カラコラム、ネパール、中国、ブータン、ヒンズークシおよび南極地域における登山ならびに学術探検に関する研究会を開いた。また、昭和 48(1973)年春のネパール王国ヤルン・カン峰遠征隊、昭和 49(1974)年カラコラムK12 峰遠征隊、昭和 52(1977)年ネパール王国ランタン谷予備調査隊、昭和 56(1981)年チベット高原予備調査隊、昭和 57(1982)年チベット高原学術登山隊、昭和 58, 59(1983, 1984)年ブータン・ヒマラヤ予備調査隊、昭和 60(1985)年ブータン・ヒマラヤ学術登山隊、および日中友好納木那尼峰合同登山隊、昭和 63(1988)年崑崙山学術登山隊、平成元(1989)年雲南省科学調査隊、ムスターグ・アタ峰医学学術登山隊および第1次梅里雪山峰学術登山隊、平成 2(1990)年シシャパンマ峰医学学術登山隊、および平成 8(1996)年第 3 次梅里雪山峰学術登山隊によってもたらされた各種資料・文献を引き続き調査した。
3. 昭和 48(1973)年 4 月 1 日をもって本会内に設立された旧国際登山探検文献センターで収集された登山探検資料を、京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に寄贈し、文献資料目録を編纂するとともに引き続き資料の充実と収集資料の整理を行った。
4. 雲南・チベット地域の総合的研究を目的とする雲南懇話会の設立に会員前田栄三らが協力し、同会の代表として会員安仁屋政武が運営に協力した。

#### II 一般社会に対する健全な登山の指導・奨励について

(定款第二章(目的および事業)第五条第二項)

1. 平成 16(2004)年 8 月、京都大学山岳部との共催で夏期登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで行った。
2. 平成 16(2004)年 12 月から平成 17(2005)年 1 月まで京都大学山岳部との共催で冬期スキー登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで行った。
3. 社団法人日本山岳会の副会長として会員芳賀孝郎、関西支部評議員として平井一正、京都支部副支部長として薬師義美、同支部委員として田中昌二郎が同会の運営に協力し、国内外の登山探検の振興に努めた。
4. 社団法人日本山岳協会の国際部海外委員として睦好正治が同会の運営に協力し、国外の登山探検の振興に努めた。
5. 国際山岳連盟(UIAA)の医学委員として会員中島道郎が同会の運営にあたった。

#### III 国内外における登山および探検の企画および協力について

(定款第二章(目的および事業)第五条第三項)

1. 平成 16(2004)年 5 月から 11 月, 新潟県妙高市笹ヶ峰において, 会員 田中二郎, 上尾庄一郎, 原田道雄, 横山宏太郎, 原剛, 高尾文雄, 山田和人, 中山茂樹らが京都大学山岳部との共同で同山岳部の管理する京都大学笹ヶ峰ヒュッテの建物耐久性調査に参加, 協力した.

#### IV 山岳登山に関する図書および機関誌などの刊行について

(定款第二章(目的および事業)第五条第四項)

1. 「平成 15(2003)年度事業報告ならびに平成 16(2004)年度事業計画」ならびに会員名簿を編纂し会員に配布した.
2. AACK Newsletter 31 号〜34 号の編集・発行を行い, 会員相互の情報交換を図った.
3. AACK 時報第 14 号の編集を行った.
4. 本会の公式ウェブサイト(www.aack.or.jp)を運営し, 本会の歴史や事業活動および社会的貢献について広く情報公開すると共に, 会員および会員外の情報交換の場を提供した.

#### V 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡および情報の交換について

(定款第二章(目的および事業)第五条第五項)

1. 日本・パキスタン合同のサルトロ・カンリ峰遠征隊の成功を契機として続けられているパキスタンの山岳会とくにカラコラムクラブとの交流をさらに深め, もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し, ひいては日本・パキスタン両国の親善に貢献した.
2. 昭和 55(1980)年, 中国登山協会代表の国会訪問を契機として始まり, カンペンチン峰, ナムナニ峰合同登山隊以降続けられてきた中国登山協会との協力をさらに深め, もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し, ひいては日本・中国両国の親善に貢献した.
3. 昭和 56(1981)年に設立された日本ブータン友好協会との交流を通じ, 両国の友好を深め, 両国登山界の発展に寄与し, ひいては日本・ブータン両国の親善に貢献した.
4. 国会設立当時から続けられているネパール王国山岳関係者との交流を深め, もって友好関係にある両国山岳界の発展に寄与し, ひいては日本・ネパール両国の親善に貢献した.
5. ヒマラヤンクラブ, ポーランド山岳会, ドイツ山岳会, オーストリア山岳会, 英国山岳会, アメリカ山岳会等との交流を深め, これら各国登山関係者との親善に貢献した.

#### VI その他前条の目的を達成するために必要な事業

(定款第二章(目的および事業)第五条第六項)

1. 平成 16(2004)年 9 月, 国会主催の第2次梅里雪山峰学術登山隊隊員(平成3(1991)年1月現地で遭難)の遺体が同峰山麓の明永氷河にて発見され, 会員小林尚礼を現地に派遣し, 遺体と遺品を収容した.

## 2 収支決算書

自平成16年4月1日  
至平成17年3月31日

### I 総括

		決算額	予算額	増減(△)
収入経常部	一般会計	4,558,862	4,300,000	258,862
	特別会計	11,792,379	11,805,000	△12,621
	合計	16,351,241	16,105,000	246,241
支出経常部	一般会計	4,558,862	4,300,000	258,862
	特別会計	11,792,379	11,805,000	△12,621
	合計	16,351,241	16,105,000	246,241

### I 平成16年度収支決算明細書

#### 1. 一般会計

##### (1) 収入の部

(単位:円)

勘定科目		決算額	予算額	増減(△)
大科目	小科目			
1. 基本財産運用収入		90	1,000	△ 910
	基本金利息	90	1,000	△ 910
2. 入会金収入		2,000	2,000	0
	入会金収入	2,000	2,000	0
3. 会費収入		987,640	1,040,000	△ 52,360
	会費収入	987,640	1,040,000	△ 52,360
4. 雑収入		737,113	707,000	30,113
	運用財産収入	462	1,000	725,651
	著作権収入	726,651	700,000	26,651
	雑収入	10,000	6,000	4,000
収入合計		1,726,843	1,750,000	△ 23,157
5. 前年度繰越金		2,832,019	2,550,000	282,019
	前年度繰越金	2,832,019	2,550,000	282,019
合計		4,558,862	4,300,000	258,862

(注:資金の範囲に未収入金は含まない)

## (2) 支出の部

(単位:円)

勘定科目		決算額	予算額	増減(△)
大科目	小科目			
1. 管理費		659,442	590,000	69,442
	事務謝金	37,800	40,000	△ 2,200
	消耗品費	10,073	10,000	73
	通信費	240,930	200,000	40,930
	印刷費	30,975	20,000	10,975
	会議費	27,664	30,000	△ 2,336
	修理費	0	10,000	△ 10,000
	備品費	10,000	10,000	0
	交通費	88,000	60,000	28,000
	借室料	200,000	200,000	0
	雑費	14,000	10,000	4,000
2. 第1事業		368,068	370,000	△ 1,932
	図書費	58,068	30,000	28,068
	装備費	10,000	10,000	0
	印刷費	300,000	330,000	△ 30,000
3. 第2事業		20,000	20,000	0
	装備費	10,000	10,000	0
	通信費	10,000	10,000	0
4. 第3事業		40,000	40,000	0
	通信費	10,000	10,000	0
	集会費	10,000	10,000	0
	交通費	10,000	10,000	0
	調査費	10,000	10,000	0
5. 第4事業		574,655	630,000	△ 55,345
	印刷費	478,805	500,000	△ 21,195
	編集費	15,000	20,000	△ 5,000
	情報通信費	80,850	110,000	△ 29,150
6. 第5事業		64,000	70,000	△ 6,000
	会議費	54,000	60,000	△ 6,000
	文献費	10,000	10,000	0
7. 予備費		0	20,000	△ 20,000
	予備費	0	20,000	△ 20,000
支出合計		1,726,165	1,740,000	△ 13,835
8. 次年度繰越金		2,832,697	2,560,000	272,697
	次年度繰越金	2,832,697	2,560,000	272,697
合計		4,558,862	4,300,000	258,862

2. 特別会計(京都大学学士山岳会遠征基金)

(1) 収入の部 (単位:円)

勘定科目		決算額	予算額	増減(△)
大科目	小科目			
1. 寄付金		0	0	0
	寄付金	0	0	0
2. 雑収入		3,048	5,000	△ 1,952
	預金利息	3,048	5,000	△ 1,952
収入合計		3,048	5,000	△ 1,952
3. 前年度繰越金		11,789,331	11,800,000	△ 10,669
	前年度繰越金	11,789,331	11,800,000	△ 10,669
合計		11,792,379	11,805,000	△ 12,621

(2) 支出の部 (単位:円)

勘定科目		決算額	予算額	増減(△)
大科目	小科目			
1. 管理費		1,155	60,000	△ 58,845
	通信費	1,155	20,000	△ 18,845
	交通費	0	10,000	△ 10,000
	事務謝金	0	20,000	△ 20,000
	消耗品費	0	10,000	△ 10,000
2. 調査補助金		1,531,387	3,500,000	△ 1,968,613
	調査補助金	1,531,387	3,000,000	△ 1,468,613
	渉外費	0	500,000	△ 500,000
支出合計		1,532,542	3,560,000	△ 2,027,458
3. 次年度繰越金		10,259,837	8,245,000	2,014,837
	次年度繰越金	10,259,837	8,245,000	2,014,837
合計		11,792,379	11,805,000	△ 12,621

### 3. 貸借対照表

2005年(平成17年)3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
[1]資産の部			
1.流動資産			
現金	4,209		
振替貯金	0		
普通預金	1,328,488		
定期預金	11,759,837		
流動資産合計		13,092,534	
2.固定資産			
基本財産			
定期預金	300,000		
固定資産合計		300,000	
資産合計			13,392,534
[2]負債の部			
負債合計			0
[3]正味財産の部			
正味財産			13,392,534
(うち基本金)			300,000
(当年度収支差額)			△ 1,528,816
負債及び正味財産合計			13,392,534

### 4. 正味財産増減計算書

2005年(平成17年)3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 増加の部			
1 資産増加額	0		
2 負債減少額	0		
増加額合計		0	0
II 減少の部			
1 資産減少額			
当期収支差額	1,528,816		
2 負債増加額	0		
減少額合計		1,528,816	1,528,816
当期正味財産減少額			△ 1,528,816
前期繰越正味財産額			14,921,350
期末正味財産合計額			13,392,534

5. 財産目録

2005年(平成17年)3月31日現在

(単位:円)

内 容	金 額		
1.運用財産			
現金	4,209		
振替貯金	0		
普通預金	1,328,488		
定期預金	11,759,837		
運用財産合計		13,092,534	
2.基本財産			
基本金			
定期預金	300,000		
基本財産合計		300,000	
財産合計			13,392,534